

がん予防・検診研究センター

概要

がん予防・検診研究センターは、有効ながんの予防法と検診方法を研究、開発するとともに、それらを国民に効率的に普及することを使命とし平成16年2月に設立されました。

予防研究部では、発がん要因究明のための疫学研究を実施するとともに、現下での科学的根拠に基づく日本人のためのがん予防法を提示しています。

検診研究部では、がん検診のアセスメント、実施マネジメントおよび受診率向上に関する研究を行っています。

検診開発研究部は、高精度のがん検診を実施し、他フィールドでの検診結果との比較により、新しい検診方法の開発とその評価に関する研究を行っています。



トピックス

■ 高精度のがん検診

高精度のがん検診を実施し、高頻度でのがん発見を目指すとともに、新しい診断方法、診断機器の開発を行っています。開院以来、平成21年3月末までに総合検診を受診された8350名中、441名(5.3%)にがんが発見されました



■ 対策型がん検診の研究

「効果のある検診」についてがん検診ガイドラインをまとめ、情報提供や啓発活動を行っています。また我が国のがん検診の状況を調査し、対策型検診を「正しく実施する」ための仕組みや受診率向上の研究をしています。



■ 大規模コホート研究

生活習慣・生活環境や遺伝素因とがんなど病気の発生との関係について科学的根拠を求めするために、10万人規模の地域住民集団を対象に、生活習慣やバイオマーカーを調べ、20年以上にわたって病気の発生を追跡し、その関連を検証する大規模コホート研究を企画・運営しています。



■ がん予防

日本人についての科学的な根拠を系統的に収集・評価し、メカニズムや国際評価を参考にしながら、がん予防法を提示しています。科学的根拠の不足を補うために新たな研究を実施し、新しい根拠に応じて予防法の更新を行っています。

日本人のためのがん予防法
一般にあって日本人に推奨できる科学的根拠に基づくがん予防法

喫煙	たばこは吸わない。他人のたばこの煙を吸うだけ避ける。
飲酒	飲むなら、節度のある飲酒をする。
食事	食事は偏らずバランスよくとる。 * 塩辛い食品、食塩の摂取は最小限にする。 * 野菜や果物不足にならない。 * 炭水化物を熱い状態にとらない。
身体活動	日常生活を活動的に過ごす。
体形	成人期での体重を適正な範囲に維持する。(太りすぎない、やせすぎない)
感染	肝炎ウイルス感染の有無を知り感染している場合はその治療の措置をとる